

5月21日(火)

視力 2.0

聖書朗読 ヨハネの福音書 9:1~12

からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が
明るいが、
マタイ 6:22

眼科医は、私が白内障の手術を受ける時が来たと言いました。私は手術が必要だとは思いませんでしたが、医師の言葉を受け入れました。私の生活は、とても快適でした。何の問題もなく本を読んだりテレビを見たりしていました。「医者がそう言うなら、白内障なんだろう。」

私は手術のための紹介状をもらい、10分間の手術に臨みました。私は、視力の改善を予期していませんでしたが、驚くことに、世界は一瞬にして明るくはっきりと見えるようになりました。洋服も、今まで思っていたのとは違うもっと綺麗な色である事に気づきました。

イエス様は、見えること、盲目であること、光について多く話されました。私はイエス様がこう言われているのを想像できます。「霊的な白内障の手術を受ける時が来ましたよ。」ヨハネ9章で、盲人は視力が必要だと説得されなくても、自分が盲目だと知っていました。

でも、パリサイ人の場合はやっかいです。彼らは盲人の癒しの正当性について議論しました。現代の虚無主義者のように、彼らは、盲人の視力が回復したという、目の当たりにした真実を認めたくありませんでした。彼らは、自分達も癒される必要があることに気づいていませんでした。

讃美歌 326 光に歩めよ

祈り 親愛なるお父様。私達は視力を曇らせてしまう白内障を持っているかもしれませぬ。それは、私達の目を覆って、あなたが下さる素晴らしいこの世界や真実を灰色に曇らせてしまいます。真実を見ることができずように、助けてください。イエス様の御名によりお祈りします。アーメン。

カリフォルニア州 マースト / ブルース W・ローグ

5月22日(水)

早朝の羊飼

聖書朗読 ヨハネの福音書 10:7~21

主は私の羊飼。私は乏しいことはありません。

詩篇 23:1

それは午前四時半のエルサレムでした。開いた窓から、大きな騒音が聞こえてきました。それは、群れを率いる羊飼いの声でした。羊に囲まれた羊飼いは、周りの羊が草を食べる間、そこに立っていました。彼の呼び声は、羊に彼の存在を知らせ続けるためのものでした。

時折、羊が離れていきそうになると、羊飼いは、羊の注意を引くために、羊の鼻の下に向かって石を投げます。準備ができると、羊飼いは次の牧草地に向かうのでした。鉄片が磁石に吸い寄せられるように、羊も群れを率いる羊飼いの周りに集まりました。羊飼いが立ち止まるとすぐに羊も立ち止まり、広がって草を食べるという行動を繰り返しました。彼らは、門の扉が開いている石の壁にやってきました。羊飼いが羊を門の中に導くと、餌の時間でした。群れが動くと、それは羊飼いを中心にした生体を見ているようでした。広がったり縮小したり、広がったり縮小したり、でも常に羊飼いの近くにいます。

私は、イエス様とイエス様に従う者達の親密さの生きた形を見たような気がしました。「わたしは良い牧者です。わたしはわたしに属するものを知っています。また、わたしに属するものは、わたしを知っています。」

讃美歌 354 ^{かいぬし} 牧主わが主よ

祈り 親愛なる主よ。私達の羊飼いであるイエス様のみこころを知ることができ



ますように。あなたの行かれる所どこにでも、あなたの愛なるお導きに従うことができますように。私達の羊飼イエス様の御名によって。
アーメン。

テキサス州 オデッサ / ペニー F・ニコルス

5月23日(木)

平安

聖書朗読 ヨハネの福音書 16:25~33

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。

コロサイ 3:15

イエス様は弟子達の足を洗うことで仕えることを教えられました。イエス様は、裏切り、ペテロの否認、差し迫った十字架での死と復活を暗示されました。イエス様は、弟子達を導くことになる聖霊を約束され、イエス様に繋がり続けることの大切さを強調されました。イエス様は、弟子達の悲しみは喜びへと変わることを約束され、彼らがイエス様を見捨てることを警告されました。

イエス様は何故、これらのことを弟子達に語られたのでしょうか。イエス様は、弟子達に平安を持って欲しいと望まれました。彼らがイエス様を見捨てた後、赦されて得られる平安を。イエス様を信頼し、イエス様に従う事を通して得られる平安を。死と復活によって、この邪悪な世に打ち勝たれたイエス様によってのみ与えられる平安を持ってほしいと思われました。

私達も、問題や困難、失敗で溢れた同じ世に住んでいますが、私達の平安はイエス様にあります。それは、私達自身が勝ち得たものではなく、神様であるイエス様が、成し遂げてくださったことのおかげです。イエス様は、イエス様がすでに世に勝たれたことを覚えているようにと望んでおられます。

讃美歌 295 やすしや罪の世にも

祈り 聖なるお父様。イエス様を通して、あなたとの和解という平和を与えてくださりありがとうございます。イエス様にのみ見つけることのできる、理解を超えた平安に感謝いたします。イエス様の御名によって。アーメン。

サウスカロライナ州 ミュレルズ・インレット / ジーナ・ゴードン

5月24日(金)

自分ではなく、神を信頼する

聖書朗読 ヨハネの福音書 18:12~27

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。 ローマ 12:3a,b

自信過剰であることは望まない結果を生むことがあります。私は、愚かにもどんなに沢山の練習が必要であるか気づかなかったせいで、学校で何百人もの前で、楽器のソロ演奏に失敗したことがあります。

私の長女は、自分の運転技術を過信し、交通量の多い街で十分注意を払う事を怠ったことで、運転し始めてすぐに事故を起こしました。時に、過信はとても危険な結果を招きます。

ヨハネ 13:36~38で、自分の信仰深さを証明するために、シモン・ペテロは、必要であれば、イエス・キリストのためにいのちも捨てる準備が出来ていました。でも、イエス様は、数時間のうちに、ペテロが主を知りもしないと言うだろうとおっしゃいました。ヨハネ 18:12~27には、イエス様が言われたことが正しかったという、悲しい真実が書かれています。ペテロの問題は、神様を信頼する代わりに、自分自身を信じ過ぎていたことでした。自信過剰だった彼は、困難を助けなしに乗り切ることができると間違えて信じてしまいました。

『神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。』(ヤコブ4:6b)と約束された通りに、困難にある時に恵みと力を与えてくださる神様を謙虚に信頼できますように。私達の自信は神様にあります。

讃美歌 268 まごころもて仰ぎまつらん

祈り 私の天なるお父様。私が自分の弱さに正直であられるよう助けてください。あなたの力を常に必要とすることに気づくことができますように。あなたの愛によって力を与えてくださりありがとうございます。イエス様の御名によって。アーメン。

コロラド州 オーロラ / ロバート P・リー

5月25日(土)

準備した手

聖書朗読 ヨハネの福音書 20:19~22

イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。

ヨハネ 20:19~20

「主よ。この食事を感謝いたします。食事を準備した手を祝福してください。」

誰かがこのように祈るのを何度聞いたことがありますか。教会での愛餐会に集まる時や、家で食卓を囲んだ時に、おいしい食事を用意しようと、誰かが捧げてくれた時間と労力、そして愛に感謝して、このような言葉で祈ります。

日曜の朝の礼拝や主の晩餐の時に、この祈りをしたらどうでしょうか。他のクリスチャンとともに主の食卓に臨むとき、私達は同じ感謝の気持ちを表すことができます。「主よ、この食事の準備をしてくださった手を感謝します。」もちろん、私達は、聖餐の静かなひと時に、主イエス・キリストを覚えることができるように、トレイを用意し、カップを満たしてくれた人達に感謝します。しかし、私達が本当に感謝して覚える手は、イエス様の御手です。

信仰の目を通して、私達は、祝福の言葉を述べながらパンとカップを取られるイエス様の御手を見ます。信仰の目を通して、私達の罪の贖いの犠牲として十字架にかかれた時の、イエス様の御手の釘の跡を見ることができます。

讃美歌 298 安かれわがころよ

祈り 私達の天のお父様。肉体と霊の両方の食事に感謝します。それを準備してくださった手を祝福してくださいますように。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 グランベリー / クリス・フリッセル



5月26日(日)

高揚感

聖書朗読 ヨハネの福音書 21:15~19

神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私達を新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。 ペテロ I 1:3

素晴らしい考えが浮かんだ時の高揚感はワクワクする瞬間ですが、よくこんな疑問が付きまといます。「次はどうしたらよいだろう。」ヨハネの福音書に書かれている、イエス様は主、神であり、イエス様によって私達に命が与えられるという重大な真実は、私達を畏敬の念でいっぱいにします。弟子達もきっとこの真実の重みを感じたはずですが、こう疑問に思ったかもしれません。「次にどうすればよいのだろうか。」

イエス様を主であると告白することは高揚感を伴いますが、それはまた、挑戦でもあります。イエス様の弟子であることは、時には重荷となります。ペテロは個人的な代償や苦役にもかかわらず、イエス様の挑戦を受け入れました。これらの重荷は、イエス様の絶えることのない祝福を経験するための機会となりました。

何年もの過酷な宣教活動の後で、ペテロは『生ける望み』について書きました。混乱や喪失の中にあっても、彼の喜びと満足感に満ちた人生は揺るぎないものでした。ペテロの重荷は、重いものでしたが、恵み深いイエス様と出会う時でもありました。

人生の旅路の中で、私達は高揚感や、それに続く挑戦に直面します。ペテロのように、人生の重荷のもとでも、私達は絶えることのない希望や喜びを見つけることができます。イエス様のご臨在はいつでも高揚感を伴う真実なのです。

讃美歌 280 わが身ののぞみは

祈り 恵み深いお父様。イエス様のように、仕えられる者ではなく、仕える者となれますように。あなたへの奉仕で良く用いられるように、私に挑戦を与えてください。イエス様の御名によって。アーメン。

アイダホ州 ボイジー / マイク・サンダース